

礼文の森から

宗谷森林管理署

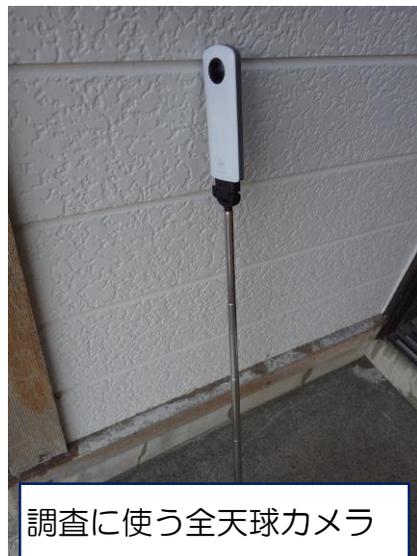
礼文森林事務所

業務紹介 地況・林況調査

礼文森林事務所の業務の中に、地況・林況調査があります。地況・林況調査とはそれぞれの林小班（森林の住所のようなもの）で樹木がどれだけ生長したか、材積はどれだけあるのか確認する調査です。

礼文島には6,446haの国有林があり、森林再生のため昭和時代から樹木を植え続けています。植えた木は生長し、森林の材積量は年々変化していきますので定期的な調査で国有林の状況を把握する必要があります。

主な調査方法としては、直接林内に調査区域を作り、樹木の太さ（胸高直径）や高さを計って材積を出す方法があります。また、今では新しい方法が生み出され、周囲360度を撮影できる全天球カメラで林内を撮影し、専用ソフトに画像を入れることで材積を計算する方法も採用しています。あらゆる業界で人手不足が問題になっていますが、林業の世界でも例外ではなく、より効率的な手法を使うことが求められています。



調査に使う全天球カメラ



本数：19本 調査位置合計：60m²/ha 材積形状係数：2208m³/ha

全天球カメラで撮影したアカエゾマツ林の写真。専用ソフト内で一定以上の太さの樹木を選択した後、材積を計算します。

～編集こぼれ話～

礼文島の山は雪が降る時期にはとても静かになりますが、北海道本土では樹皮や木の芽を食べてしまうエゾシカを捕まえる絶好の季節でもあります。礼文島では馴染みのないエゾシカ捕獲業務について今後紹介いたします。